

# “青は藍より出でて藍より青し”の願いを込めて

長崎県立長崎工業高等学校 教務主任 西平 隆行

### 1 はじめに

ジュニアマイスター顕彰制度は、高校在学中に取得した資格・検定等を評価し顕彰する制度である。生徒が意欲的に学習に取り組むことを促す上で、生徒が身に付けた知識・技術・技能を積極的に評価するためにこの制度が生まれた。

### 2 学校紹介

創立88年目を迎える本校は、機械科、機械システム科、電気科、工業化学科、建築科、インテリア科、電子工学科、情報技術科の8つの学科がある。校訓「技術の真髄をつかめ」のもと、これまで「資格取得」「ものづくり」「多様な進路」を柱に「県内就職支援」や「外部機関との連携」、学校設定科目「半導体製造技術」を開設するなど、様々な社会状況に応じて取り組みをリニューアルしながら、生徒がより良い工業教育の機会を受けられる環境づくりに努めている。

### 3 ポジティブスイッチ “自分にもできるかも”

在校生及び卒業生の実績を見て、入学する多くの生徒はたくさん資格を取得し、卒業したいとの高い意識を持って入学してくる。しかし、現実には甘くない。資格取得に向けての補習、課題提出、部活動との調整、合格点に達しない歯がゆさなどの悩みを抱える生徒も少なくはない。この悩みへの対処として考えたのが「自分にもできるかもーポジティブスイッチ」である。「やる気スイッチ」より「自分にもできるかも」との思いを抱かせる方法を模索することにした。個別指導で同じような問題だけを出题し自信を付けさせる。学んだことを生徒同士のペア学習でアウトプットし、定着を図る。「できそうだ」「できた」という感覚を抱かせるための仕掛けをいくつも学習の中で実践する。生徒は「できそうだ」「できた」を繰り返すことで自信となり、次への挑戦意欲を高揚させる。特に、ペア学習やグループ学習など協働的学習は効果的

であった。学年が上がるにつれ、生徒間での学び合いの場が自主的に広がっている。

### 4 生徒の声

「卒業後の進路は進学を考えていた。授業料減免などの条件を得たいと考え、ジュニアマイスターゴールド取得を目指し、日々努力を積み重ねた。結果、進路目標の達成につながった。取得することで自分の進む道が広がり、夢も広がっていくと感じた」「高校生活で頑張ったことは、技能検定である。先生方が熱心に指導してくださったおかげで、専門的な知識や技能を習得するとともに、卒業後、産業界で頑張っていけるという自信にもつながった」このような声が生徒から聞かれるようになった。



学び合う生徒

### 5 未来に向けて

様々な考えや価値観を持った多様性の時代、生徒たちは資格取得を目指し頑張ったり、ものづくりで技を磨いたり、コンクールやコンテストに応募したりする。高校生活3年間という限られた中でそれぞれの思いを持って挑戦し、その「頑張り」を評価されるのは嬉しいものである。ジュニアマイスター顕彰制度は「なりたい自分・目指したい自分」になるために、努力を積み重ねる日々の行動の契機となり、それを維持するための原動力・動機となっている。

工業教育を通して生徒が主体性を持った社会人として社会で柔軟かつ力強く対応できるようにしたい。高校3年間にどれだけの目標に向き合わせられるか。工業教育の現場には生徒一人ひとりが自分にあった目標設定ができる機会が溢れている。これこそが工業教育の可能性であると感じている。